

平成 25 年度前期 名古屋大学大学院共通科目 授業案内

Nagoya University Graduate School Common Courses
Course Information
Spring Semester, 2013



Relationships & Comm.,
Academic Writing,
Presentation, etc.



藝術リテラシー
etc.

名古屋大学教養教育院

Institute of Liberal Arts and Sciences
Nagoya University

平成25年度前期 授業科目一覧 Spring Semester Schedule 2013

授業科目 Course Title	単位数 Credit	教員 Instructor	曜限 Day・Hour	講義室 Class Room	ページ Page
体験型講義「リーダーシップ」	2	栗本	集中	Ace Lab S	3
体験型講義「チーム・ビルディング」	2	栗本	集中	Ace Lab S	4
Relationships and Communication (Seminar) I	1	Go Yoshida	月2限 Mon. 2	Ace Lab S	5
Relationships and Communication (Seminar) II	1				
芸術リテラシー（絵画論Ⅰ）	2	小林（英）	火2限	C43	6
芸術リテラシー（音楽Ⅰ）	2	小林（聡）	火5限	国言棟4階 ビデオスタジオ	7
芸術リテラシー （レクチャーコンサートⅠ）	2	丹下・七條	木5限	国言棟4階 ビデオスタジオ	8
大学教員論	2	夏目 他	集中		9
研究のビジュアルデザイン	2	田中・遠藤	集中		10

Mei-Writing

Academic Writing I (A)	English	2	Paul W. L. Lai	Tue. 3	C31	11
Academic Writing I (B)		2	Chad Nilep	Thu. 4	A33	12
Academic Writing I (F)		2	Kevin Teo	Thu. 2	A11	13
Academic Writing I (C)	German	2	Markus Rude	Wed. 5	S14	14
Academic Writing I (D)	French	2	Nicolas Baumert	Mon. 3	A11	15
Academic Writing I (E)	Chinese	2	Jian Lu	Mon. 4	A11	16
Presentation I (E)		2	Mark Weeks	Wed. 3	A15	17

申請方法 How to Apply

①電子メール による申請 Send e-mail

- ・受講希望クラス、学生番号、氏名、所属研究科・専攻、連絡先（電話番号、メールアドレス）、受講理由を明記して4月17日（水）17時までに電子メールで申請。

- ・ Send an e-mail by 17:00, April 17, 2013 (Wed.), providing the following information: 1) course title, 2) your ID number, 3) your name 4) your department, major, 5) your contact information (phone number, e-mail address), 6) an explanation of why you want to take this course.

- ・ 表題: 講義科目名
Subject: Course Title

- ・ E-mail address: kyo-kika@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

- ・ 但し、Academic Writing, Presentation (Mei-Writing) は、meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp に送付して下さい。

- ・ Note: If you wish to apply for a Mei-Writing course, please send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp.

②第1回目 授業に出席 First Lesson

- ・受講を希望する人は、第1回目の授業（前期授業：4月11日（木）～）に必ず出席してください。但し、受講調整を行うこともあります。その方法については、第1回目の授業で説明します。

- ・ If you wish to take any one of the courses, please come to the first lesson (4/11-) of the course that you wish to take. However, please note that space is limited. Students will be informed whether or not they are accepted to take the course in the first lesson. Details will be announced at the first lesson.

③各研究科で 履修登録 Registration

- ・受講を許可された人は、各研究科教務担当掛で履修登録をしてください。（登録の締切日は所属研究科担当掛に確認して下さい。）受講許可された人で、受講を取りやめる場合は必ず担当教員に連絡して下さい。

- ・ Students who are accepted are required to register for the course at the administration office of their respective graduate school.

- ・ Since the registration deadline varies from school to school, students are advised to check the deadline of their own graduate school.

- ・ Those who are accepted but decide not to take the course, please contact the course instructor as soon as possible.

■詳細につきましては、下記 URL でご覧ください。

For the detailed information, please go to the following website.

➤ 教養教育院 HP >> 大学院共通科目

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/gradschoolssubject/>
[Mei-Writing Course]

➤ 教養教育院 HP >> Mei-Writing

<http://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/AWU>

年度（西暦）（Year） 2013年度	開講期（Term） 集中	曜日（Day）	時限（Period）
科目名（Course Title） 体験型講義「リーダーシップ」			
担当教員（Instructor） 栗本 英和			
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.） 体験型講義1「リーダーシップ」と体験型講義2「マネジメント」（後期開講予定）をセットで受講することを勧める。			
目的と目標（Course Objective） 体験型講義は、研究分野の枠組を超えて求められる、リーダーシップ、マネジメント、チーム・ビルディング等に関する基本概念を、体験を通して会得すると同時に、事例分析や比較分析を通して、その基本知識を体系的に学修することを目的とする。 研究開発におけるリーダーは未来を拓く牽引者として、学術だけでなく、産業、行政、医療、教育の機関のほか非営利団体など業種や業態を超えて求められている。しかしながら、そのリーダー像と行動様式（リーダーシップ）は、必ずしも明確でないため、勘と経験と度胸と呼ばれる実践型訓練が現場で行われている。 本講義では、真の勇気と知性を備えた牽引者像の具現化と現実解を創出する資質・能力の醸成を目指す。			
内容と計画（Course Content） 1-1 リーダシップの概念を共有する。 ○リーダーシップがもつ概念を言語空間で可視化し、概念を類型化・構造化する。 ○作成した概念図を、相手に伝わるように伝える、効果的な表現手法を学ぶ。 ○協働作業を通して、世界に通用する日本型リーダー像を共有する。 ○組織活動を主題にしたドラマの登場人物から、多様なリーダーシップ像を掴む。 1-2 リーダシップの身体感覚をつかむ。 ○抽象的な概念を、動画制作のプロセスを通して、「伝わる」ように「伝える」ための 知性と感性を培う。 ○異分野のチームメンバーによる概念の形成、物語の作成、素材の収集、動画の編集、作品の発表、コンセプトの創出等において、リーダーシップの実践感覚を学ぶ。 ○制作作品の発表会、専門家による講評、制作工程のアセスメントを行う。 1-3 各界の著名なトップリーダー※を招き、対話を通して真のリーダー像を探る。 ○研究、行政、産業等、各界のトップから、次世代リーダーの必要要件を深掘りする。 例えば、グローバル企業のCEO、国際的に通用する研究者リーダー、行政の長等 1-4 本講義で得た学修成果を共有する。 ※大講義室で実施し、受講生以外も聴講可能とするが、質疑は受講生のみ限定する。			
成績評価の方法と基準（Grading Basis） 課題制作を通じた想像力・構想力・対話力・評価力(60%)、講義への参画や態度(40%)			
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.） 講義のなかで示す。			
連絡先（Contact Address） 教養教育推進室 栗本英和 kuri(at-mark)info.human.nagoya-u.ac.jp at-mark を@ にしてください。			
連絡事項（Notes） 体験型講義は、教養教育推進室が社会人からのニーズを実際に調査し、社会から真に求められる資質・能力を醸成する教育プログラムとして、担当講師、受講生、修了生が協働して開発を進めています。開講日は掲示します。 想像力を醸成し、考想と協調を促進する場である「エース・ラボS」で実施するため、収容数に限りがあります。 ※アドバンスコースとして、体験型講義3「チーム・ビルディング」で総合力を培い、体験型講義4「エンプロイアビリティ」で博士後期に繋がる実践力を身につけます。			

年度（西暦）（Year）	開講期（Term）	曜日（Day）	時限（Period）
2013年度	集中		
科目名（Course Title） 体験型講義「チーム・ビルディング」			
担当教員（Instructor） 栗本 英和			
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.） 基礎段階として、体験型講義1「リーダーシップ」、体験型講義2「マネジメント」 実践段階として、体験型講義4「エンプロイアビリティ」			
目的と目標（Course Objective） 体験型講義は、研究分野の枠組を超えて求められる、リーダーシップ、マネジメント、チーム・ビルディング等に関する基本概念を、体験を通して会得すると同時に、事例分析や比較分析を通して、その基本知識を体系的に学修することを目的とする。 On the Job Training は、費用の問題があり失敗が許されない、時間的制約から学ぶ時間が十分でない、状況に応じた適切な指導者がいないなど、その限界も指摘されている。 本講義では、文系学生と理系学生が1つの目標に向かい、創意工夫、試行錯誤、協働作業を通して、問題の原因追求、解決するための目標や計画の策定、費用と性能と開発費の配分、問題を未然防止するための方策、仮説と検証、根拠に基づいた思考、継続的な改善などを学び、「わかる」人から「できる」人になるための動機づけを図る。 また、異分野チームをどのように形成してゆくのか、価値観や文化が異なるチーム・ビルディングを擬似体験する。こうした体験から、専門的知識の長所・短所に気づき、その活かし方から、現実課題に取り組むチームサイエンスを学ぶ。			
内容と計画（Course Content） 3-1 文系と理系が協働して耐久性のある構造物を製作する目的、意義、価値を共有する。 3-2 構造物を製作するための予備知識や基礎知識を確認する。 チーム・ビルディングにおけるルールと手順を理解する。 3-3 構造物を製作するための調査、第1次設計、目標設定と計画書を作成する。 不具合予測やリスクマネジメントによるデザインレビュー終了後、実際に製作する。 3-4 第1回のアセスメント評価と成功事例を共有する。 3-5 原因分析と改善目標を設定し、第2次設計、計画書を作成する。 不具合予測やリスクマネジメントによるデザインレビュー終了後、実際に製作する。 3-6 第2回のアセスメント評価と振り返り資料を作成する。 3-7 概念化して、策を考え、実践し、結果を得る一連の経験と内省から、耐久性の解析力や設計力、合意形成力を培う。また、知識修得だけでは実践できない気づきから、文系と理系が協働して行う開発現場での様々な事象や仕事の進め方を学修する。			
成績評価の方法と基準（Grading Basis） 課題解決のための分析力・洞察力・対話力・評価力(60%)、講義への参画や態度(40%)			
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.） 講義のなかで示す。			
連絡先（Contact Address） 教養教育推進室 栗本英和 kuri(at-mark)info.human.nagoya-u.ac.jp at-mark を@ にしてください。			
連絡事項（Notes） 体験型講義は、教養教育推進室が社会人からのニーズを実際に調査し、社会から真に求められる資質・能力を醸成する教育プログラムとして、担当講師、受講生、修了生が協働して開発を進めています。 ※アドバンスコースとして、体験型講義3「チーム・ビルディング」では総合力を、体験型講義4「エンプロイアビリティ」では後期課程で求められる実践力を培います。			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期 Spring	曜日 (Day) 月 Monday	時限 (Period) 2
科目名 (Course Title)	Relationships and Communication I		
担当教員 (Instructor)	Go Yoshida, Professor, Office of International Strategic Planning		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
<p>目的と目標 (Course Objective)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Better self-awareness 2. Understanding of common hurdles with relationships and communication 3. Understanding the essence of communication 4. Developing a basic understanding of marriage 5. Ability to establish enduring relationships 			
<p>内容と計画 (Course Content)</p> <p>○Course Description Relationships and communication are critical for our success, let alone survival as human beings as no man/woman is an island. In this class, we will first explore the self, and cover some of the hurdles that prevent us from maintaining healthy communication and relationships. In particular, we will explore in depth some of the key considerations in selecting a suitable partner and what marriage is. The ultimate goal of this class is to transform students' thinking, to change oneself, to have meaningful and sustaining relationships.</p> <p>○Topics Covered •Understanding Self •Control and Responsibility •Interpersonal Relationships •Essence of Communication •Defensive Mechanisms •Conflict Resolution •Selecting a Partner •What is Marriage?</p> <p>○Course Format This graduate class is broken down into 4 modules with each module consisting of 4 classes (with the last module 3 classes): •Module 1: Understanding Self, Control and Responsibility •Module 2: Interpersonal Relationships, Essence of Communication •Module 3: Defensive Mechanisms, Conflict Resolution •Module 4: Selecting a Partner, What is Marriage Students must take a minimum of 2 modules with the 1st module as the only requirement. •2 modules: 1 credit •All 4 modules: 2 credits When you send the e-mail, please specify the module you wish to take.</p>			
<p>成績評価の方法と基準 (Grading Basis)</p> <p>Written Assignments 50% Classroom Participation 50%</p>			
<p>教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)</p> <p>Required Text 1. Arbinger Institute, The Anatomy of Peace: Resolving the Heart of Conflict (Berrett-Koehler; May 2008). 2. Maxwell, John C., The Difference Maker: Making Your Attitude Your Greatest Asset (Thomas Nelson; August 2006).</p>			
<p>連絡先 (Contact Address)</p> <p>goyoshida@gmail.com / 052-747-6506 / Ext. 6506 (on-campus)</p>			
<p>連絡事項 (Notes)</p> <p>Office: Room 737 (7th Floor), IB Bldg., West Wing (above IB Café) Class time and Room: TBD; Classroom: TBD (Kyoyo Kyoiku-in Bldg) Office hours: By appointment Facebook Group: "Japan Career and Life Development"</p>			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期	曜日 (Day) 火	時限 (Period) 2
科目名 (Course Title) 藝術リテラシー(絵画論 I)			
担当教員 (Instructor) 小林 英樹			
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) 本授業は、理論系の西洋美術史(通史)ではない。美術に関心がある方ならすべてOK。			
目的と目標 (Course Objective) 絵画は造形的表現でありながら、象徴、寓意など言語的要素も有する。さらに絵画の来歴など様々な要素が付随し、造形的要素がぼかされたり不問にされたりする。本授業では、造形的要素にスポットを当て、絵画を深く感じ取る能力を養うことを主目的とする。また、色彩に対する繊細な感覚と個性を養成するため、色鉛筆(赤・青・黄)を使い、課題(例、「質の異なる三つの物質」「好きな曲」など)を色彩表現させる。最終的目的は、豊かな感性の構築とどんな名画にも余裕を持って向き合える気持ちの獲得にある。			
内容と計画 (Course Content) 難解、窮屈ではなく、楽しみながら気づいたら実力がついている。 プロジェクターを通しての画像を使用しながら古今の絵画(主に西洋絵画)と向かい合っていく。絵画にまつわる諸々の情報などを覚えてもらうタイプの授業ではなく、可能な限り純粋に造形的要素に的を絞り絵画を鑑賞し、絵画の深い理解を目指す。絵画を表層の色彩が作り出すフォルムに限定せず、キャンヴァス、膠塗り、地塗りなどにも目を向け、絵画を構造的にとらえたりもする。「絵画論1」では、ジョット、フラ・アンジェリコ、ファン・アイク、ボス、レオナルド・ダ・ヴィンチ、カラヴァッジョ、レンブラント、フェルメールなど古典の画家の作品を扱う。 授業を講義、解説一色にせず、参加学生にも主体的に関わってもらう。色彩演習、色鉛筆(赤・青・黄)でどこまで色を出せるのか、その可能性に挑戦する。無限の色彩で与えられた課題をこなしていくうちにその威力に驚くだろう。美術を専門に学ぶ愛知県立芸大の油画の学生、ごく普通の学生が受講した前任校の北海学園大学の一般教養の芸術論でもその効果はいかんとなく発揮された。以前は画材としては認められていなかった色鉛筆を、近年のパソコンプリンターの淡いインキの色の混色で無限の色ができることから、見直し、採用している。携帯も簡単、手も汚れずに、自らの手で素晴らしい発見を体験できる。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) (1)前期一回の鑑賞に関するレポートを課題に応えるかたちで提出。 (2)色彩の実習(自分の気に入った課題二課題を提出)。 (1)(2)の総合で評価する。6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書、参考書、参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) なし			
連絡先 (Contact Address)			
連絡事項 (Notes) 赤、青、黄、三色の色鉛筆を用意。メーカーはどこのものでもよい。あえて推薦するなら、ファーバーカステル、ステッドラーのドイツ製品がよい。100円ショップなどに置いている顔料が少なく蠟が多い廉価なものは不適切である。また、赤は朱が勝っていない濃いもの、黄は濃いものよりレモン色っぽいものの方がよい。青は、明るい水色でもなく濃紺でもない、その中位の青がよい。セルリアンブルー、または、コバルトブルーに近ければいい。最初の授業で説明するので、購入はその後でもよい。			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期	曜日 (Day) 火	時限 (Period) 5
科目名 (Course Title)	藝術リテラシー(音楽 I)		
担当教員 (Instructor)	小林 聡		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
基本的な楽譜の読み方(義務教育レベル)がわかること。和音(コード)など西洋音楽の骨格となる簡単な理論を理解しているとなおよい。			
目的と目標 (Course Objective)			
本授業では、中世・ルネサンスの音楽から、現代音楽や現代のポップ・ミュージックまでを時代順に考察し、各時代の音楽作品の特徴と代表的な作曲家のスタイルを研究する。音楽作品を聴きその特徴を感覚的に把握し、楽譜を見て作品の音組織や構成も理解するための能力を養うことを目的とする。			
内容と計画 (Course Content)			
第1回では、導入として、楽典の知識の確認と、授業計画の説明を行う。			
第2回では、ルネサンスの音楽を鑑賞し、教会旋法を学び、対位法の基礎となる全音符単旋律の作曲を試みる。			
第3〜4回では、J.S.バッハの作品を中心にバロック時代の音楽を鑑賞し、当時の楽器(チェンバロ、クラヴィコード、オルガン等)の特徴や楽器編成について学ぶ。また当時の音楽形式や器楽的対位法にも触れる。			
第5回では、モーツァルトの作品を鑑賞し、ギャラント・スタイルについて学ぶ。			
第6回では、ベートーヴェンの作品を鑑賞し、ソナタ形式について学ぶ。			
第7回では、主要三和音に基づくメロディーの作曲を行う。			
第8回では、第7回で書いたメロディーを基に伴奏付けを試み、変奏曲やソナタに発展させる可能性を考える。			
第9回では、ショパンの作品を鑑賞し、ショパンの作品の特徴を考える。			
第10回ではフランス印象派の作品を鑑賞し、和声の特徴を考える。			
第11回では、12音音楽の作品を聴き、実際に12音の音列を書いてみる。			
第12回では、1960年代以降のヨーロッパの音楽作品を鑑賞する。			
第13回では、現代の日本人作曲家の作品を鑑賞する。			
第14回では、小室哲哉の作品を鑑賞し、作曲学的に分析する。			
第15回では、まとめとしてルネサンスから現代までの音楽の変遷を確認する。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
出席、授業中に試作する楽曲、提出レポートを総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
教科書 特になし。必要に応じてプリントを配布する。			
参考書 対位法 長谷川良夫著 音楽之友社 楽式論 石桁真礼生著 音楽之友社 総合和声 実技・分析・原理 島岡譲著 音楽之友社 Stylistic Harmony Work Book Anna Butterworth 著 Oxford University Press Inventing Finnish Music Kimmo Korhonen Finnish Music Information Centre			
連絡先 (Contact Address)			
連絡事項 (Notes)			
音楽作品を鑑賞するさいには、実際のコンサートで聴いているつもりでのぞんでください。また、授業中に実際に音符を書く課題もあるため、五線紙も用意してください。 この授業ではルネサンス時代から現代に至るいろいろな音楽を聴き、その構成について考え、また実際に音楽を書いて行きたいと思います。			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期	曜日 (Day) 木	時限 (Period) 5
科目名 (Course Title)	藝術リテラシー(レクチャーコンサートⅠ)－名大生のための音楽史入門1		
担当教員 (Instructor)	丹下聡子、七條めぐみ		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
音楽的な能力・経験等は問わないが、音楽を単に聴いて楽しむだけでなく、学問的にも理解することへの意欲が求められる。			
目的と目標 (Course Objective)			
愛知県立芸術大学の博士課程で学ぶ現役の演奏家が講師を務める。授業では、講師による演奏を交えながら、クラシック音楽を通史的に学び、時代や作曲家による音楽作品の違いを感じ取る。			
内容と計画 (Course Content)			
「フルートでたどる音楽史」 講師プロフィール…丹下聡子(愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程3年、フルート) 七條めぐみ(同2年、音楽学)			
なお、この授業は、愛知県立芸術大学と名古屋大学の大学間連携によって、井上さつき(愛知県立芸術大学音楽学部教授)と藤井たぎる(名古屋大学国際言語文化研究科教授)の監修のもとに開講されます。			
第1回 ガイダンス、時代区分と楽器の紹介			
第2～3回 中世、ルネサンス、バロック:ヴィヴァルディ、バッハ(親子)、ヘンデル			
第4～5回 古典派:ダンツィ(木管五重奏)、モーツァルト、ドゥヴィエンヌ			
第6～7回 19世紀①:テュルー、ベーム			
第8～9回 19世紀②:オーケストラの中のフルート(ブラームス、ドビュッシー)			
第10～11回 20世紀①:イベール、プーランク			
第12～13回 20世紀②:ジョリヴェ、メシアン			
第14回 邦人作品:フルートの特殊奏法(福島和夫、成木理香、武満徹)			
第15回 総集編			
第2回以降は、時代背景や作曲家についての講義と、フルートの実演による音楽作品の紹介を交互に行います。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
学期末にレポートを課す。毎回の授業のコメントカードと、平常点で総合的に評価する。 6回以上授業を欠席した場合は「欠席」とする。			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
教科書 久保田慶一ほか『はじめての音楽史——古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社、2009年。			
参考書 『西洋の音楽と社会』シリーズ、全12巻、音楽之友社、1996-1997年。			
連絡先 (Contact Address)			
連絡事項 (Notes)			
総合大学の学生にとって、クラシック音楽を聞いたり演奏したりする機会はそれほど珍しくないと思いますが、生の演奏を耳にしながらか音楽の歴史を学ぶ、という経験は初めてではないでしょうか。この授業では、五感を使ってクラシック音楽に触れ、それが社会の中でどのように変化してきたかを学ぶことで、皆さんが音楽文化に一層の興味をもつきっかけとなれば良いと思っています。前期では、フルートのレパートリーを数多く紹介しながら、音楽史の大まかな流れをつかみます。			

年度（西暦）（Year）	開講期（Term）	曜日（Day）	時限（Period）
2013年度	集中		
科目名（Course Title） 大学教員論			
担当教員（Instructor） 夏目達也・近田政博・中井俊樹			
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.） ・博士前期課程1年生以上 ・開講時までに教科書を購入のこと			
目的と目標（Course Objective） この授業が終了したときに、受講者のみなさんが以下のような知識や能力を身につけることを目標にします。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学の成り立ちや大学教員の職務について理解する ・大学という組織で働くために必要な知識、スキルを身につける ・授業で得た知識、スキルをもとに、自身の今後の学修やキャリア設計を進めることができる ・多様な考え方や経験で培った事例を尊重し、共に教え学びあう雰囲気貢献する 			
内容と計画（Course Content） 大学教員になるために必要な知識、スキル等の獲得をめざし、多面的に大学教員の職務を検討します。受講者の今後のキャリア設計、キャリア開発に資するよう、グループワーク等を適宜織り込んで、実践的に進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・各回の内容はスケジュールで示しているのので、授業までに教科書の該当箇所を予習しておくこと 第1回 大学教員という職業 – 自己紹介 – この授業に関する説明 – 大学教員職の歴史 – 大学教員職の特徴 教科書1章 第2回 授業を設計する – 授業のシラバス – シラバス作成法 教科書2章 第3回 教授法の基礎 – 授業づくりの基本の型 – 学生参加型授業 教科書3章 第4回 学習成果を評価する – 教育評価の論点 – 評価の具体的方法 教科書4章 第5回 書く力をつけさせる(1) – 事前準備 – 授業中の働きかけ – 採点 – フィードバック 教科書5章 第6回 書く力をつけさせる(2) – 模擬授業(グループワーク) 教科書5章 第7回 大学教育におけるチームワーク – 大学内の組織 – 学内リソースの活用法 教科書 7章 第8回 国際化のなかの大学教員 – 国際化の現状と意味 – 教育の国際化への対応 – 研究の国際化への対応 教科書10章 第9回 研究のマネジメント – 大学教員の研究活動の特徴 – 研究プロジェクト管理の基本 教科書8章 第10回 社会サービスに取り組む(1) – 社会サービスの概史 – 社会サービスの類型 教科書9章 第11回 社会サービスに取り組む(2) – 社会サービスにおける現代の課題 教科書9章 第12回 大学教員の倫理 – 倫理とは何か – 教育・研究の倫理的実践 – 大学教員の自由と責任 教科書11章 第13回 学生のキャリア形成を支援する – 就職支援からキャリア形成支援への転換 – 主体的進路決定の支援 教科書6章 第14回 多様な高等教育機関 – 教育・研究条件の多様性 – 多様性への対応 教科書 12章 第15回 大学教員のライフコース – 生活設計 – 職階で異なる仕事 教科書13章 			
成績評価の方法と基準（Grading Basis） 授業への参加・小課題 60% レポート(8月中旬締切予定) 40%			
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.） 教科書 夏目達也、近田政博、中井俊樹、齋藤芳子(2010)『大学教員準備講座』玉川大学出版部(2400円) 雑誌 『文部科学白書』(文部科学省、年刊) 『IDE現代の高等教育』(IDE大学協会、年10回、1954～)			
連絡先（Contact Address）			
連絡事項（Notes） レポートの書式と提出方法 <ul style="list-style-type: none"> ・参考文献はすべてリストする ・A4用紙を使用する ・すべてのページにページ番号をつける ・ホッチキスでとめて提出する ・担当教員にメールでも送る 			

年度（西暦）（Year）	開講期（Term）	曜日（Day）	時限（Period）
2013 年度	集中		
科目名（Course Title）	研究のビジュアルデザイン		
担当教員（Instructor）	田中佐代子／筑波大学筑波大学芸術系准教授 遠藤潤一／広島国際学院大学情報文化学部専任講師		
履修条件あるいは関連科目等（Enrollment Conditions, etc.）	特になし		
目的と目標（Course Objective）	<p>研究の発想や支援には、視覚的な思考のもつ創造性や、全体を俯瞰する力がおおきくかかわっている。この授業の目的は、デザインについての知識を深めるとともに、科学の可視化であるサイエンス・ビジュアリゼーションと、発表資料のデザインに関する原理や手法を理解し、研究との相乗効果を高めることにある。講義と制作を通して、グラフィクスやイラスト、ポスターやスライド制作の基礎的な技術を身につけ、研究の遂行や発表に役立てることが目標である。</p>		
内容と計画（Course Content）	<p>「サイエンス・ビジュアリゼーション」(前半)</p> <p>研究発表に際して用いられるデータの可視化や科学イラストレーションの原理について講義し、それらの制作を通して、図にかかわる基本的な技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のオリエンテーションとデザイン概論 2. サイエンス・ビジュアリゼーションの考え方と手法 3-7. ビジュアリゼーションの制作 8. 制作物の講評とビジュアリゼーションの可能性 <p>「研究発表資料のデザイン」(後半)</p> <p>研究発表で使用されるプレゼンテーションスライドやポスターのデザイン手法について講義し、それらの制作を通して、コミュニケーション技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. デザインの考え方と研究発表 10-13. 研究発表資料のデザイン 14. 制作物の講評と情報デザインの展開 15. 研究とヴィジュアルをつなぐリテラシー 		
成績評価の方法と基準（Grading Basis）	授業への出席と議論への参加などの平常点、および提出した制作物、レポート等。		
教科書、参考書、参照情報等（Textbook, Reference book, etc.）	<p>田中佐代子著『科学者のためのビジュアルデザインハンドブック』（配布）</p> <p>遠藤潤一（タイトル未定）名古屋大学高等教育研究センター（配布）</p> <p>Felice C. Frankel, Angela H. DePace 著 “Visual Strategies: A Practical Guide to Graphics for Scientists and Engineers”, Yale University Press (参考書)</p> <p>遠藤潤一ほか『情報デザインバイシクス』ユニテ (参考書)</p>		
連絡先（Contact Address）	茂登山清文(情報科学研究科・内線 4774)		
連絡事項（Notes）	<p>制作にあたっては、Macintosh コンピュータと Adobe CS を使うが、その簡単な使用方法も授業内でおこなう。</p> <p>制作では、既に作成または発表したグラフィクスやポスターなどをリメイクするので、それらを持参することがのぞましい。</p> <p>前後半の講義の間に、デザインの展覧会などを見学し、レポートしてもらうことがある。</p>		

年度 (西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2013 年度	前期 Spring	火 Tuesday	3
科目名 (Course Title)	Academic Writing I (A) - Logical Thinking Skills In Academic Writing		
担当教員 (Instructor)	Paul W. L. Lai		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
(1)Graduate students who are able to take classes, and communicate, in English. (2)Preference will be given to those who are planning to submit abstracts to international conferences or journals.			
目的と目標 (Course Objective)			
The two-semester graduate course has been developed since 2008 based on a new teaching method that integrates the training of logical thinking skills into the training of academic writing. Its primary goal is to help graduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper for publication at a high international level. In the spring semester students will mainly learn how to develop a preliminary thesis statement (main research idea) for their respective research, and a logical argument for the thesis statement. In the autumn semester students will mainly learn how to incorporate the thesis statement and logical argument into an abstract, introduction, and learn how to develop a counterargument or advanced argument. After successfully completing the entire course, the students should be in a good position to complete and send their papers for publication. Those who succeed in having at least one English abstract accepted for publication during the course might be employed as an Academic Writing Tutorial Specialist (teaching assistant) in the following academic year.			
内容と計画 (Course Content)			
This is a highly interactive course! You will be asked a lot of questions, and you are encouraged to ask questions or give comments at ANYTIME! There will be plenty of lectures, class works, and group works. And all these activities will be implemented based on YOUR OWN RESEARCH! In particular, the spring semester will cover the following: Lesson 1: Introduction to logical thinking and academic writing. <i>(Lecture)</i> Lesson 2: A narrow but useful definition of academic writing. <i>(Lecture)</i> Lesson 3: The role of thesis statement in academic writing. <i>(Lecture)</i> Lesson 4: Step by step guide on how to build a thesis statement for your research. <i>(Class & Group work)</i> Lesson 5: Student presentation on Thesis Statement. <i>(Student presentation)</i> Lesson 6: Student presentation on Thesis Statement. <i>(Student presentation)</i> Lesson 7: Introduction to logic, and how logic can be applied to your research. <i>(Lecture)</i> Lesson 8: Step by step guide on how to build a logical argument for your research - Part 1. <i>(Class & Group work)</i> Lesson 9: Step by step guide on how to build a logical argument for your research - Part 2. <i>(Class & Group work)</i> Lesson 10: Step by step guide on how to build a logical argument for your research - Part 3. <i>(Class & Group work)</i> Lesson 11: Introduction to common logical fallacies. <i>(Lecture)</i> Lesson 12: Student presentation on Logical Argument. <i>(Student presentation)</i> Lesson 13: Student presentation on Logical Argument. <i>(Student presentation)</i> Lesson 14: Student presentation on Logical Argument. <i>(Student presentation)</i> Lesson 15: Review, reflection, and course evaluation. <i>(Discussion)</i>			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Students who need the course credits are required to meet the following conditions: (1)Attendance must be over 80%(2)Two oral presentations ((i) thesis statement, (ii) logical argument)			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
The course instructor has developed a series of course materials, including (i) step-by-step guide on how to build a thesis statement, (ii) step-by-step guide on how to build a logical argument, (iii) template on how to write a high quality abstract, (iv) template on how to write a high quality introduction, etc. All these materials are free, and will be available for download at the course web site.			
連絡先 (Contact Address)	meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp		
連絡事項 (Notes)			
(1)Whether or not you are selected to take this course, please attend the first lesson. (2)The first lesson of the course will commence on April 16, 2013.			

年度 (西暦) (Year)	開講期 (Term)	曜日 (Day)	時限 (Period)
2013 年度	前期 Spring	木 Thursday	4
科目名 (Course Title)	Academic Writing I (B)		
担当教員 (Instructor)	Chad Nilep		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
The course is open to graduate students in any field. You must be able to communicate effectively in English.			
目的と目標 (Course Objective)			
Writing practice further develops skills of paraphrase, synthesis, and critical evaluation. Students will locate, read, and evaluate a recently published book in their own field. Each student will prepare an oral critique and a written review.			
内容と計画 (Course Content)			
Weekly homework will develop writing skills such as logical argumentation, paraphrase and synthesis, and coherence in prose writing.			
Students will also discuss thesis writing as a project, and how to re-write thesis chapters as journal articles.			
Students will select a recently published book relevant to their thesis or graduate studies.			
They will read and evaluate the book, give an oral presentation on its content, and write a book review.			
At the end of the course, students are expected to try to publish this review in a journal in their own field.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
Two written assignments (40%);			
participation in group discussions (20%);			
reviewing other student's written work to help them re-write (20%);			
attendance and regular class participation (20%)			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
None			
連絡先 (Contact Address)			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
Enrollment is limited to 20 students.			
If you are interested in taking this course, you are required to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp explaining in English why you want to take this course.			
Include "Academic Writing I(B)" in the subject.			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期 Spring	曜日 (Day) 木 Thursday	時限 (Period) 2
科目名 (Course Title)	Academic Writing I (F) - Writing for Academic Theses and Essays		
担当教員 (Instructor)	Kevin Teo		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) No prior pre-requisites			
目的と目標 (Course Objective) The primary goal of this course is to instil fundamental skills in writing coherent and well-structured essays in English, especially at the graduate level of theses and academic articles. By the end of the course, you should have hands-on experience in writing academic essays and proposals, and then developing them into fuller-length pieces of writing.			
内容と計画 (Course Content) (1) Introduction to the language of academic writing. (2) Topic sentences, Signposting statements, conjunctions and connectors. (3) Formulating your introductions, abstracts and proposals. (4) Documentation and structuring of arguments. (5) Citation of other critical arguments. (6) The structure of abstracts. (7) Essay writing practice and workshop. (8) Logical arguments and fallacies. (9) Review, reflection, and course evaluation.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) (1) Attendance must be over 80% (2) One abstract in English to be discussed during the course. (3) A final paper of about 4 to 5 pages (double-spaced, Times New Roman font size 12) to be submitted as a development of the abstract, based on an academic topic of your own interest. It could also be work in progress.			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) Course materials will be circulated later in the term			
連絡先 (Contact Address) You are encouraged to send an email to meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp in English in the first week of April, explaining why you want to take this course.			
連絡事項 (Notes)			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期 Spring	曜日 (Day) 水 Wednesday	時限 (Period) 5
科目名 (Course Title)	Academic Writing I (C) -Akademisches Schreiben Kritisches Denken		
担当教員 (Instructor)	Markus Rude		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) Fuer postgraduierte Student(inn)en, die zu Teamarbeit und zu kritischem, wissenschaftlichen Diskurs bereit sind. (For graduate students who are willing to work in a team and to engage in critical discourse.)			
目的と目標 (Course Objective) Ziel ist es die Faehigkeit zu entwickeln, Akademische Texte auf Deutsch zu produzieren. Kernpunkte sind der rote Faden, die logische Entfaltung der Argumentation und die auf die Leserschaft abgestimmte Darstellung. Gelegentliche Kurzvortraege und Diskussionen sollen kritisches Denken foerdern. Im Wintersemester liegt der Schwerpunkt auf der praktischen Seite: Das Ziel ist die Vertiefung von Prinzipien Akademischen Schreibens. Zum Abschluss soll ein akademischer Text produziert und nach Moeglichkeit veroeffentlicht werden. (The goal of this course is the development of the skill to produce academic texts in German. The key points are thesis statement, logical argumentation and clear presentation. Occasional short lectures and discussions shall stimulate critical thinking. The winter term's ultimate goal is to publish one academic text in German language.)			
内容と計画 (Course Content) Anhand von Zusatzmaterialien und Uebungen werden Basiselemente und Strukturmerkmale akademischer Texte durch eigenes Schreiben praktisch erprobt: das Abstract, die Kernaussage oder These, Einleitung, Hauptteil, Schluss, Quellen und Zitate. Methode: kooperatives Schreiben und individuelles Schreiben, Reflektieren und Diskutieren akademischer Texte, kritisches Lesen und Begutachten von Texten anderer Kursteilnehmer. Durch gelegentliche kurze Gastvortraege wird auch akademisches Diskutieren einbezogen: dies foerdert kritisches Denken und damit letztendlich die Qualitaet eigener Texte. (Basic elements and structure of academic writing, abstract and thesis statement, critical reading, introduction, main body, conclusion, sources and citations. Procedure: Critical reading, collaborative writing and individual writing, reviewing and discussing academic texts. Oral presentations, questions and answers, and general scientific discussions will occasionally be included.) Unterschiede zwischen dem Sommerkurs und dem Winterkurs: Im Sommer werden die Prinzipien Akademischen Schreibens schrittweise behandelt und das Kursbuch ist obligatorisch. Im Winter steht das Schreiben eigener Texte im Vordergrund, das Kursbuch wird empfohlen. Dabei sind die Teilnehmenden gleichzeitig Autoren, Leser und Gutachter. Es ist am besten beide Kurse zu absolvieren, aber sie koennen auch unabhaengig voneinander belegt werden. (The summer course covers the basic elements of Academic Writing step by step. The winter course is centered on production of academic writing in a hands-on approach, in a setting in which every participant is author, reader and reviewer. We recommend taking both, summer and winter course, however, each of the two can also be taken individually.)			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) Anwesenheit (80% Minimum). Kriterien: Hausaufgaben, schriftliche Aufgaben, muendliche Kurzberichte oder Kurzvortraege. (Minimum 80% attendance. Criteria: homework, written assignments, oral reports or short presentations)			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) Empfohlen zum Nachschlagen (recommended for reference): Pospiech Ulrike: Duden Ratgeber - Wie schreibt man wissenschaftliche Arbeiten? Alles Wichtige von der Planung bis zum fertigen Text Publisher: Bibliograph. Instit. GmbH (2012) ISBN: 3411747110			
連絡先 (Contact Address) meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes) Schreiben Sie mir bei Interesse bitte eine E-Mail, in der Sie sich kurz vorstellen und Ihre Motivation und Erwartungen in Bezug auf diesen Kurs mitteilen, auf Deutsch, oder auf Deutsch und Englisch. (If you are interested, please send an email to me introducing yourself and your motivation to take this course, written in German, or in German and English.)			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期 Spring	曜日 (Day) 月 Monday	時限 (Period) 3
科目名 (Course Title)	Academic Writing I (D) - Projets de recherche		
担当教員 (Instructor)	Nicolas Baumert		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) S'assurer de la validité d'une inscription universitaire et avoir un projet de recherche sur lequel travailler			
目的と目標 (Course Objective) Le but de ce cours est d'aider les étudiants à développer les bases de l'écriture académique en français. L'approche est multidisciplinaire. Il s'agit d'apprendre à rédiger un texte clair et convaincant visant à la publication d'une première contribution scientifique. A la fin du cours, les étudiants seront capables d'écrire en français au moins un résumé ou un projet de recherche.			
内容と計画 (Course Content) Le cours propose des exposés méthodologiques, des exercices et des ateliers d'écriture. Il s'organise en 3 parties. (1) Introduction aux règles de la rédaction en français et à ses principales difficultés (formulation d'une thèse ou d'une problématique, plans,...). (2) Analyse critique de textes scientifiques (articles, comptes-rendus d'ouvrages,...) (3) Travail de rédaction de la part des étudiants à partir de leurs propres recherches. Le choix du travail final de rédaction peut être choisi en fonction des besoins de chacun (par exemple : candidatures à des bourses, résumé en français d'un mémoire de maîtrise ou d'une thèse, résumé en français d'un article en japonais).			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) Présence et participation 40% Travail de rédaction 60%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) 教科書 Le matériel de cours sera distribué sous forme de photocopies. 参考書 Un dictionnaire est recommandé.			
連絡先 (Contact Address) meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes) Pour s'inscrire à ce cours, merci d'envoyer un email de préinscription à meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp (se référer aux instructions générales des cours d'Academic Writing pour les dates de début des cours et les salles). Le statut d'auditeur libre est également possible.			

年度 (西曆) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期 Spring	曜日 (Day) 月 Monday	時限 (Period) 4
科目名 (Course Title)	Academic Writing I (E)		
担当教員 (Instructor)	Jian Lu		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.)			
不分国籍，凡正在准备学位论文、期刊论文和准备参加学会的学生均可。最好具有一定的用汉语发表见解以及参加讨论的能力。			
目的と目標 (Course Objective)			
这门课的主要目标是培养学生中文学术论文的写作能力。我们将从学生的实际出发，通过课程的系统训练，逐步引导学生建立汉语思维，并掌握汉语的语言习惯以及论文的写作技巧，以致达到能用中文发表论文的水平。课程计划分为前、后两个阶段，第一阶段是准备阶段，以培养学生的“汉语感觉”为目的，重点语言习惯的培养和思维能力的训练；第二阶段是实践阶段，以写作技巧为主线进行具体的指导与实践，争取在课程结束时，帮助学生完成一篇“名副其实”的中文小论文。			
内容と計画 (Course Content)			
前期阶段：目的是为写论文作思维与语言上的准备。主要内容包括：(1) 学术论文的基础知识储备（如：介绍各专业学术论文的特征、论文的写作流程、文章构成、论题选择等等）；(2) 通过阅读优秀论文，介绍汉语学术论文的整体特征、格式、规范和要求；(3) 介绍汉语的思维与语言习惯，从中、日、英对比的角度出发，分析作为一篇学术论文，中文篇章表现上的“约定俗成”以及语法规则和惯用表现的理据；(4) 翻译练习，比较直接用汉语写成的论文和以翻译为中介手段而完成的中文论文二者之间的区别；(5) 同源译文的分析对比；(6) 通过母语进行逻辑思辨能力的训练；(7) 如何撰写研究计划			
后期阶段：目的是以写作实践为主，一步步引导学生完成一篇小论文的写作。主要内容包括：(1) 如何制定一个清晰、明确的中文标题；(2) 如何简明扼要地概括论文中心论点；(3) 如何建立论文的论证结构，并冠以明确的中文表述；(4) 如何撰写论文提要 (abstract) (5) 如何撰写“前言”和“结语”；(6) 行文技巧（比如参考文献的文体、论据的筛选、“引用”的表述、汉语语料库以及资料的收集方法、网页等等）；(7) 学会发表技巧			
※以上内容计划以学年为单位完成，分为前期课程和后期课程，不过具体实施上将根据学生的选修情况做时间及内容上的调整，以期使每位学生能学以致用。			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis)			
(1) 出席次数在总课次的 2/3 以上； (2) 课堂表现			
教科書，参考書，参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.)			
随堂布置			
連絡先 (Contact Address)			
meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes)			
这是一个学习的课堂，也是大家练习学会发表以及交流的场所。课上学生们从自己的研究出发，互相启发，互相帮助，创设了一个很好的研究氛围。汉语非母语的学生，除了论文写作训练以外，还可以提高汉语的语言表达能力；中国留学生可以训练逻辑思辨能力以及提高论文的写作技巧。每周除了正常授课外，还有一节个别辅导时间，有需要的学生可以利用这个时间商谈论文或练习学会发表。有时候也会开研究发表会，供大家学术交流。总之，它就像一个“汉语之家”，欢迎更多的同学加入到我们的行列中。			
キーワード (Keyword) 思维、技巧与实践			

年度 (西暦) (Year) 2013 年度	開講期 (Term) 前期 Spring	曜日 (Day) 水 Wednesday	時限 (Period) 3
科目名 (Course Title)	Presentation I (E)		
担当教員 (Instructor)	Mark Weeks		
履修条件あるいは関連科目等 (Enrollment Conditions, etc.) Graduate students and researchers who are able to take classes and communicate functionally in English are eligible.			
目的と目標 (Course Objective) The central aims of this course are to help students/researchers in any field to 1. acquire skills in drafting logical, clear and persuasively effective academic presentations 2. develop confidence and competence in delivering presentations in English.			
内容と計画 (Course Content) Classes are conducted in an informal atmosphere, with students discussing issues and working together in pairs or small groups, changing partners each week. Most lessons include a short interactive lecture by the instructor on one of the themes listed below, with related group or class discussions and exercises. Video models are sometimes analyzed. While all the time pursuing the two key aims mentioned above, the following topics are studied during the semester in the order given. Introduction: the functions and pleasures of presentations Finding your controlling idea Showing significance Preparing an abstract/proposal Presentation Introductions Logical support Conclusions Language for structural clarity Delivery: voice, body language, interaction with slides Effective slide use and design Question time Strategies for reducing nervousness Students will be encouraged to deliver two presentations, at least one with slides, during the semester in order to gain experience and receive detailed feedback for further improvement.			
成績評価の方法と基準 (Grading Basis) Participation 70% Two presentations 30%			
教科書, 参考書, 参照情報等 (Textbook, Reference book, etc.) All materials are prepared and provided by the instructor. Electronic copies of key materials will be sent to students throughout the course. A dictionary for using English.			
連絡先 (Contact Address) meiwriting@ilas.nagoya-u.ac.jp			
連絡事項 (Notes) Academic presentations are an important activity in global research communities today. In an atmosphere that is relaxed but at the same time challenging, I want to show that it is possible to excel at communicating research. The instructor will also provide practical support and advice for participants preparing to give academic presentations outside the course.			

大学院共通科目とは

教養教育院では、平成 23 年度より「国際社会に通用する語学力を養成し、社会変化に対応し得る高度で知的な能力及び素養を備える人材の育成を図る」ことを目的として大学院共通科目を開講しており、平成 25 年度前期においても、本冊子のとおり開講いたします。

大学院共通科目は、「博士課程教育リーディングプログラム」*に対応した特色のある講義内容となっており、多くの大学院生に受講していただきたいと考えております。

なお、修得した単位がどのように扱われるかは、各研究科の教務担当掛で確認してください。

*「博士課程教育リーディングプログラム」

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的としています。

名古屋大学教養教育院 教養教育推進室
TEL:052-789-4723 FAX:052-789-3527